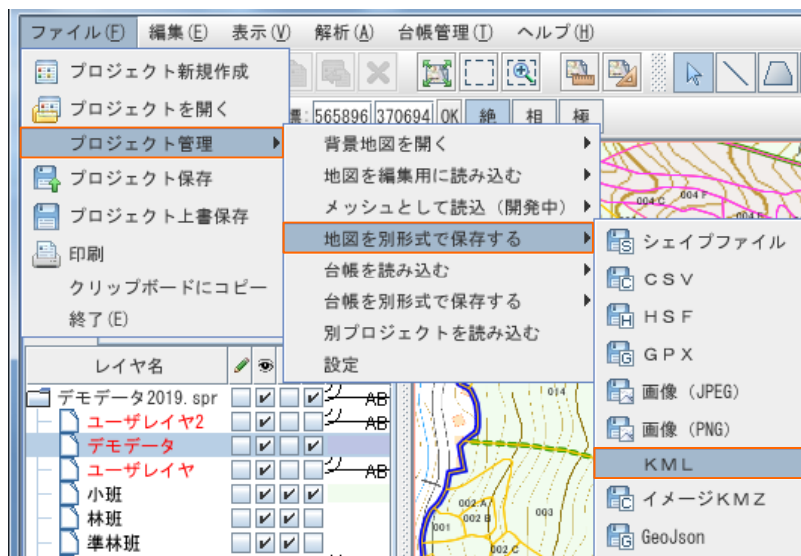


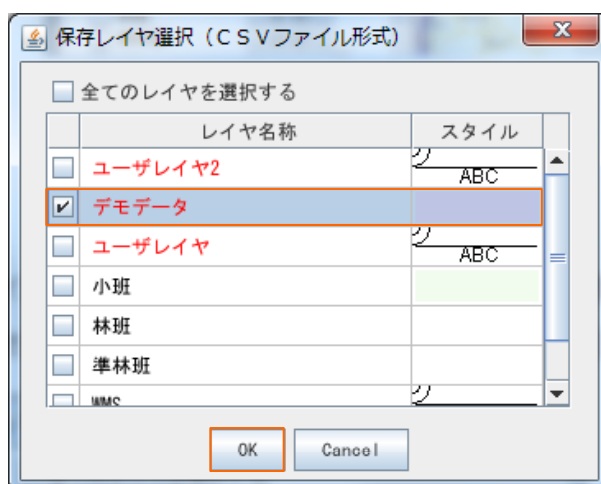
地図データを「GoogleEarth」へ表示

地図データのレイヤまたは、マウスで囲んだエリアを GoogleEarthPro へ表示できます。
ここでは、レイヤをGoogleEarthPro で表示するためのKMLファイルを出力します。

- 1 メニューバー[ファイル]→[プロジェクト管理]→[地図を別形式で保存する]→[KML]をクリックします。

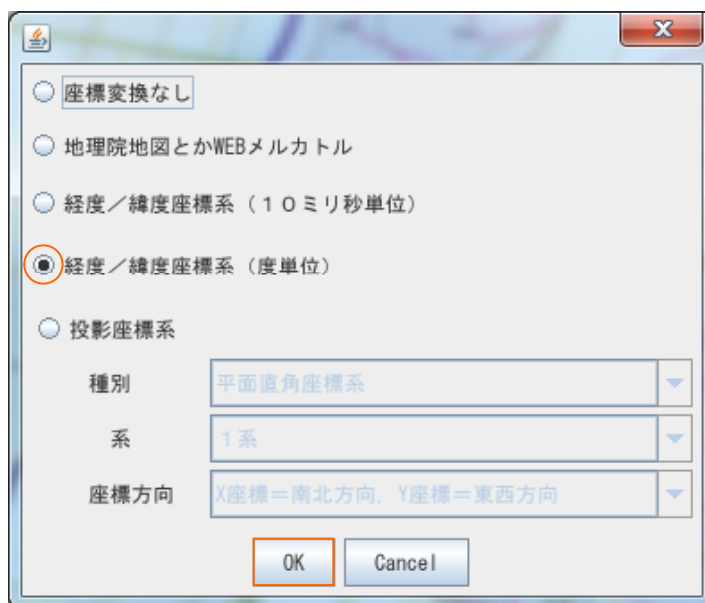


- 2 [保存レイヤ選択]ウィンドウで、出力するレイヤを選択し、[OK]をクリックします。



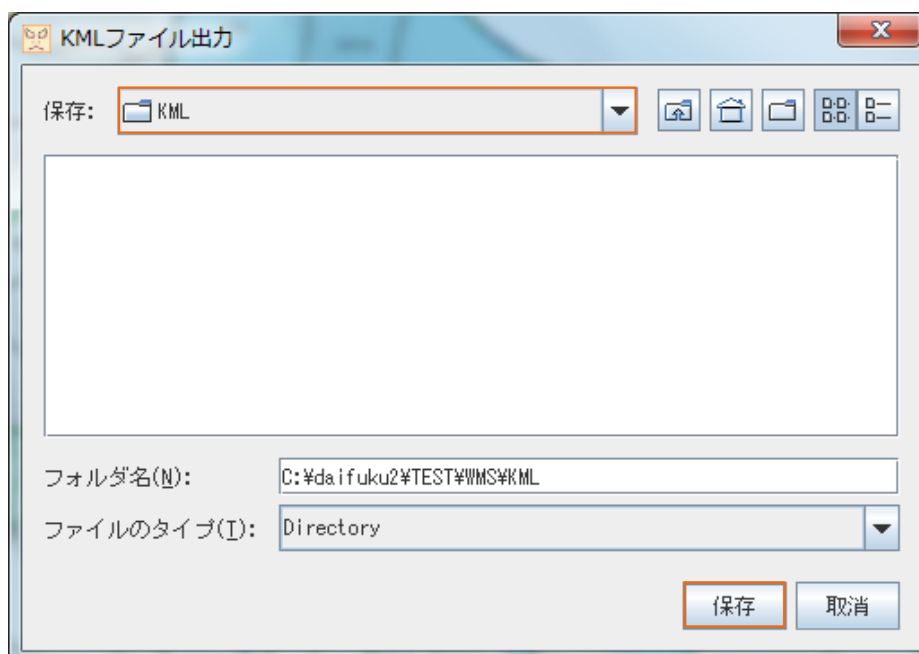
- 3 ウィンドウが開きますので、座標系の設定を行い、[OK]をクリックします。

※注意 KMLファイルの出力時の座標系は必ず 緯度／経度座標系を選択してください



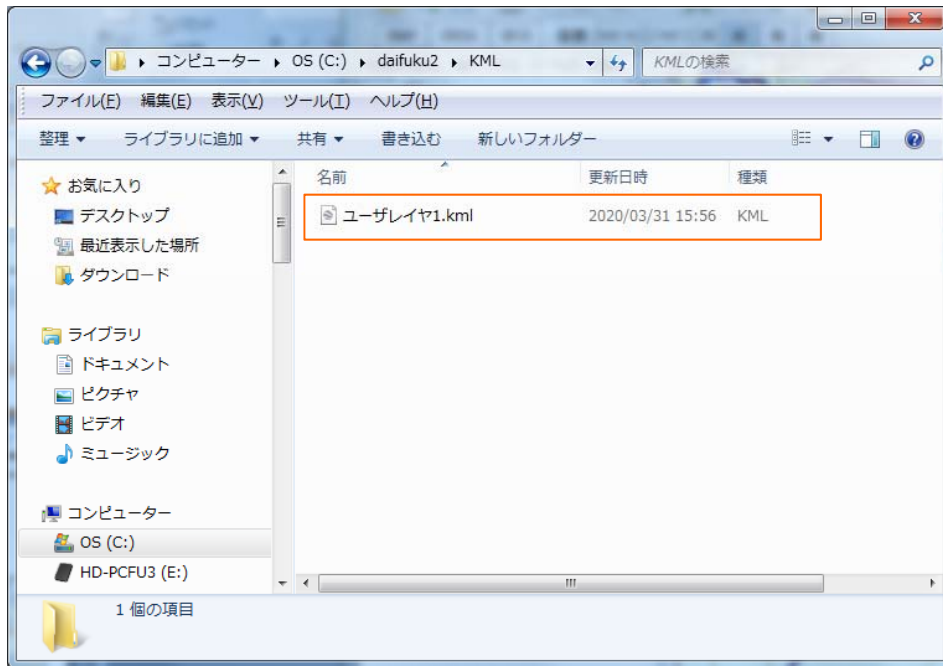
- 4 保存先のフォルダを選択します。

[KMLファイル出力]ウィンドウが開きますので、ファイルの出力先フォルダを選択し、[保存]をクリックします。

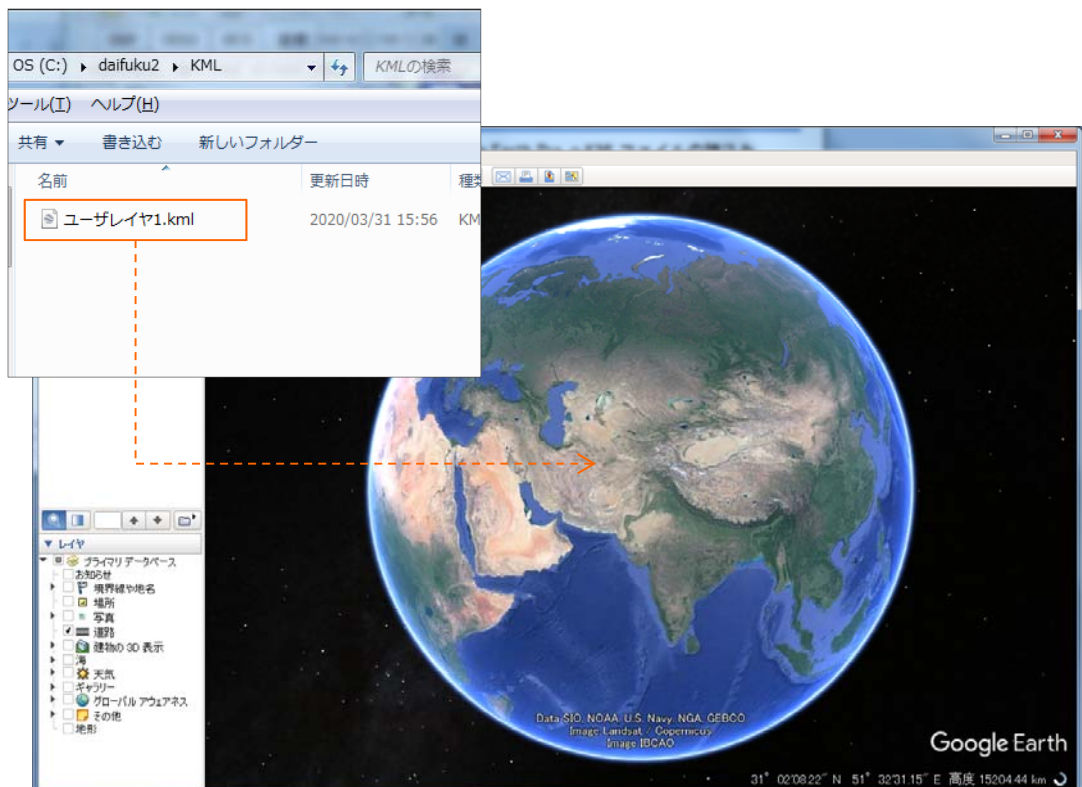


5 データが出力されたことを確認します。

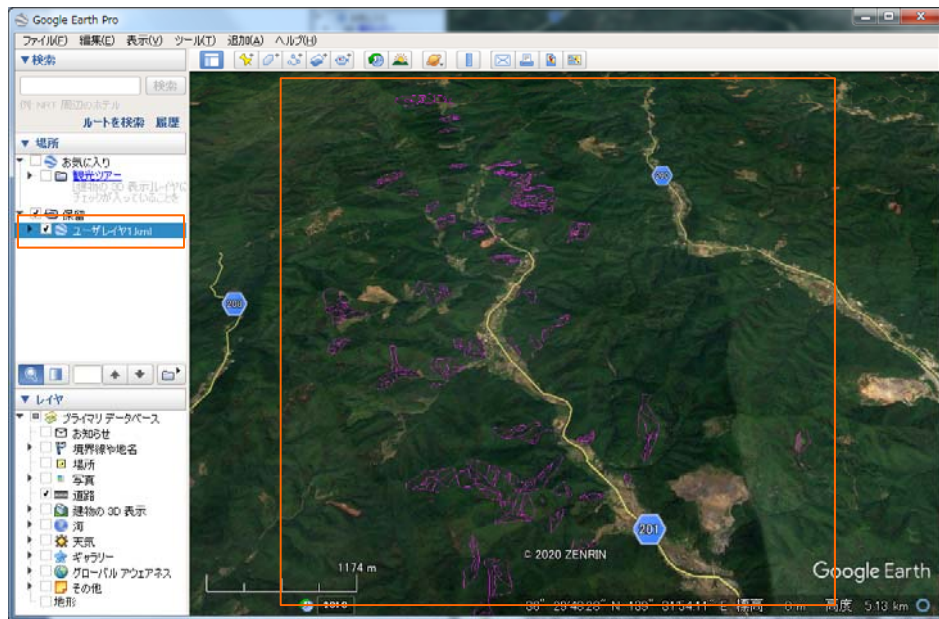
《例》 [ユーザレイヤ1.kml] が出力(保存)されました。



6 GoogleEarthProがすでにインストールされている場合は、出力されたファイルをダブルクリックします。インストールされていない場合は、GoogleEarthProをダウンロードし、インストールしてから作業を行って下さい。GoogleEarthProが起動します。



7 データが読み込まれたことを確認します。

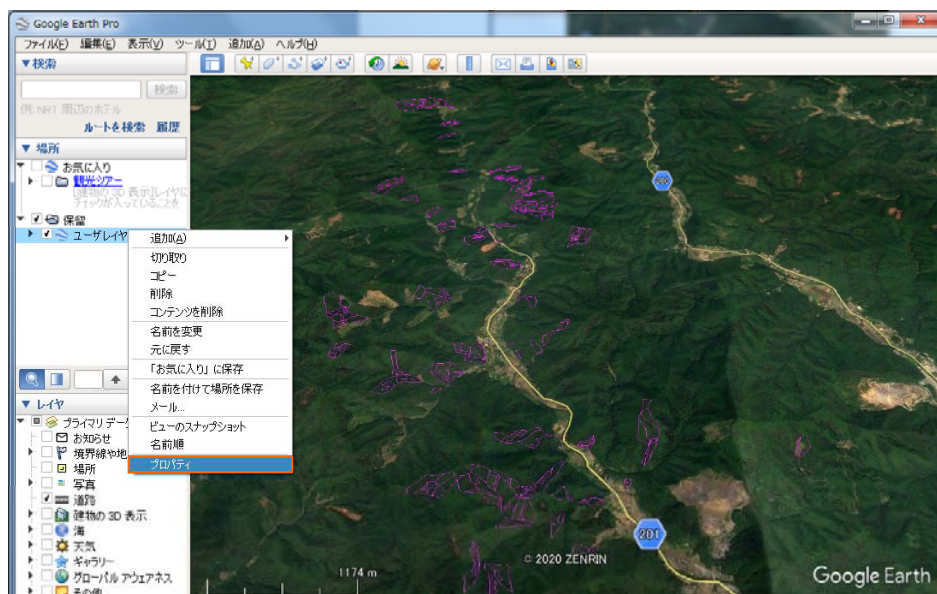


KMLファイルで認識できない特殊文字が入っていると、エラーウィンドウが出て、Google Earth Pro へ表示できない場合があります。



8 表示設定を行います。

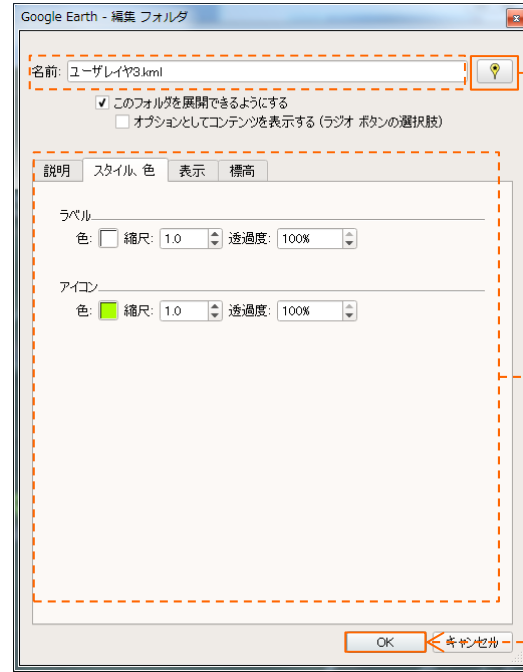
設定するデータを選択し、マウスで右クリックし、プロパティを選択します。



9 [Google Earth-編集 フォルダ] ウィンドウが開きますので、表示方法を設定します
 名前の変更や [スタイル] タブから、図形の表示方法を変更して[OK]を選択します。

ポリゴンデータ

ポイントデータ

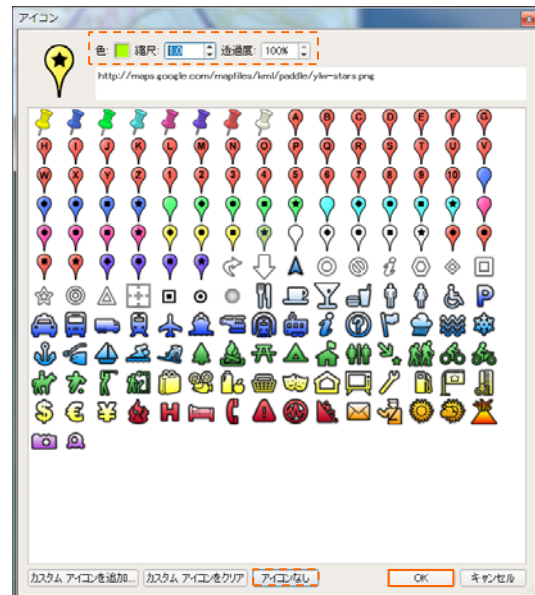


アイコンの表示設定を行います。

[アイコン] ウィンドウが開きますので選択し、
 [OK]をクリックします。

※ [縮尺]でアイコン大きさの変更

[アイコンなし]クリックでアイコンの非表示等が
 行えます。



10 データの表示／非表示の切り替えが行えます。

データ名の横の [✓] をクリックし、チェックを外すことで表示／非表示を切り替えることができます。



表示状態(チェックが入っている)



非表示状態(チェックが入っていない)

11 表示が変更されたことを確認します。

